

MATRIX OF CYBER SMART CITY CONSORTIUM

地上と宇宙を、デジタルでつなぐ。
スマートシティを「新産業」にする。

スマートネイションを提唱し、スマートシティとスマートソサエティの開発を支援する

未来創造団体

AX　DX　GX　IoT　**半導体**　**SMR**　**防災**　都市間連携

一般社団法人 サイバースマートシティ創造協議会（MCSCC）

MATRIX OF CYBER SMART CITY CONSORTIUM

地上と宇宙を、
デジタルソリューションでつなぐ。
スマートシティを「新産業」にする。

未来創造団体

スマートネイション（Smart Nation）を提唱し、スマートシティとスマートソサエティの開発を支援する。

地方で型を作り、都市間連携で結び、社会課題ごとにカスタマイズする実装型協議会です。

AX　DX　GX　IoT　半導体　SMR　防災　都市間連携

― 目玉は半導体・SMR・防災

MCSCCの都市階層化設計 ― 5つの層を、一つの設計に

末端	神経	頭脳	手足	宇宙
センサー、ウェアラブル、IoTデバイスが都市のデータの入口になる	LPWA等の通信網が、山間部・離島を含む都市の隅々を結ぶ	AIデータセンター＝都市の頭脳（サイバーブレイン）がデータを判断に変える	ドローンとモビリティが、点検・物流・医療の現場で動く	衛星の通信・測位が、地上の届かない場所と時間をつなぐ

目玉① 半導体

都市の頭脳を動かす心臓。AI半導体の需要爆発の只中で、日本の強みである製造装置・材料の急所を握る。

目玉② SMR（小型モジュール炉）

AIデータセンターのギガワット級の電力に応える安定電源。半導体とエネルギーを一体で設計する。

目玉③ 防災

市民の命を守る神経網。益田の防災IoT（LPWA水位監視）は国会でも先進事例として紹介され、海外展開が進む。

都市の課題は、地上だけでは解けません。MCSCCは5層を一つのアーキテクチャとして設計し、スマートシティを実証から「新産業」へ引き上げる意志を持って活動しています。益田で自治体教育から始めて型を作り、長崎で結び直したこの実装モデルを、私たちは「**益田―長崎モデル**」（国際名：**KATAモデル**）と呼びます。その型は、アジアHub＝インドネシア、EU Hub＝ブルガリアへと広がり、ベトナムをはじめ各国政府・都市との連携に進んでいます。

体制

設立 2018年10月29日	**本部** 東京グローバルヘッドクォーター（日本橋茅場町）
国内拠点 全国11キャンパス（益田・真庭・八代・西条・長崎・館林・仙台・富山・松江・出雲・大村）	**海外キャンパス** バリ島サヌール／西ジャワ州バンドン／ジャカルタ特別州／東ヌサ・トゥンガラ州（予定）
活動範囲 日本を起点に世界で活動 ― 双Hub戦略：アジアHub＝インドネシア／EU Hub＝ブルガリア	
東京都との連携 東京都グローバルサウスGX促進プロジェクト「インドネシア」の連携サポーター（MCSCC・AGD・SCOが登録）	

代表理事挨拶



益田で始めたのは、技術の実験ではありませんでした。過疎と高齢化に直面する地域の困りごとを、地域の皆さんと一緒に書き出し、必要な技術を生み出すこと。それが「益田スタイル」です。技術があるから試すのではなく、課題があるから技術を生む。この順序は今も変わりません。

いま私たちは、益田から長崎へ、そしてインドネシア、ブルガリア、ベトナムへと舞台を広げ、地上と宇宙をデジタルでつなぐスマートネイションの実装に挑んでいます。スマートシティは交響楽団のようなもの。多様な主体と技術を調和させ、市民に満足してもらう。MCSCCは、未来を予測するだけでなく、未来を創る側の団体であり続けます。

一般社団法人サイバースマートシティ創造協議会
代表理事　**豊崎 禎久**

国プロ等の実績 ― 益田スマートシティ時代から現在まで

2016　島根県益田市でスマートシティプロジェクトを開始（「益田モデル」の起点）

2016-19　プロジェクト組成に先立ち、益田市職員・市内企業へIoT教育セミナーを全11回無償で実施（全職員が受講。「日本一IoTに精通した行政マン」を掲げた自治体教育が益田モデルの土台）

2018　益田市とIoTテストベッド事業推進の包括連携協定を締結

2019　国土交通省　スマートシティ先行モデルプロジェクト「先行15モデル地区」に選定（2019〜2021年、3年連続採択）。京都スマートシティエキスポ2019の全国自治体交流シンポジウムで講演

2019-20　国土交通省「スマートシティ実証調査」（令和元年度補正・令和2年度、益田市）：見守り、IoT基幹、道路・電気柵モニタリング等を実証

2021　経産省FS採択：バリ島スマートモビリティ・インフラ開発調査（4者共同受託、MCSCC全体統括、2022年にYPSとMOU）。長崎県Society5.0意識啓発セミナーで講演（県・市町職員約200名）。Super City／Smart City OSAKA 2021で特別講演。日経・日経ビジネスに記事・インタビュー掲載

2022　内閣官房 デジタル田園都市国家構想「Digi田甲子園」に選出。埼玉県の同構想キックオフで基調講演

2023　資源エネルギー庁採択（令和4年度）：ジャカルタ廃棄物発電・EVバスのセクターカップリングFS

2024　第1回MCSCC-長崎県-長崎市デジタルDX合同勉強会を長崎県庁で開催

2025　内閣府「先端的サービスの開発・構築及び規制・制度改革に関する調査事業」：ドローンでのインフラ点検効率化調査（長崎市野母崎、疑似レベル3.5条件で公道上空の道路点検を実証）

2026　東京都グローバルサウスGX促進プロジェクト「インドネシア」の連携サポーター（MCSCC・AGDほか加盟企業）。会員企業JOYCLEの採択を支援し、レバナでGX技術のFSを推進

2025-26　西ジャワ州レバナメトロポリタンとMOU（2025年）、フェーズ2MOU（2026年）。バンドン工科大学（ITB）とMOU、BRINとの3者MOU（2026年）。ブルガリアでは副首相の招聘でラデフ首相らと国際会合、政策提言を提唱（2026年）。長崎県議会インドネシア視察団の支援プログラムも担う（第1回2024年・第2回2026年、県議会と共同企画）。代表理事はジャカルタの非営利シンクタンクCitieslab Nusantaraのシニアフェローに就任（2026年）

継続開催　シンポジウム・フォーラム・セミナー：益田・東京で継続開催。「ニッポン・ハイテク再成長させる会」の大規模シンポジウム（第8回は設立記念と共催）や、デジタル田園都市フォーラム（第1回・益田、第2回・品川、第3回・長崎、第4回・長崎）を主催。日ASEANスマートシティ・ネットワーク　ハイレベル会合では第1・2回で講演、第6回（2024年）に招聘・出展し、国土交通省の調整でインドネシア内務省とMOUに合意。ジャカルタでのSDGs国際会合の企画・開催、2026年には長崎県と共催でインドネシア経済・産業・人材シンポジウムも開催

役員・顧問・事務局

代表理事　豊崎 禎久
理事　橋本 剛／根本 隆之／末松 謙一／須齋 正幸
特別顧問　空本 誠喜（エネルギー担当兼ベトナム・ブルガリア担当）／金子 洋一（経済金融政策担当）／Bernardus Djonoputro（インドネシア都市計画担当）
永久名誉顧問　神近 義邦（ESG理念）
監事　桜井 宏（原子炉耐震設計）
事務総長　小出 貴子
顧問　Ahmed Uddin Ashir（新興国ヘルスケア）／荒川 隆（農業）／荒木 正之（地震・減災）／石川 智久（癌治療・個別化医療）／岩前 篤（スマートハウス）／殷 洛（中国スマート建設）／Eko Fajar Nurprasetyo（インドネシア市場半導体）／大崎 正巳（無線）／大澤 幸生（AI）／神谷 純（デジタルコンテンツ）／桑原 祐史（防災・ドローン）／小林 正明（地球・都市環境）／小林 広明（量子コンピューター）／齋藤 佳名美（スポーツIoT）／齋藤　寿章（地域歯科医療）／椎名　茂（AI＆ブロックチェーン）／清水　嘉代子（訪問看護）／杉浦　一徳（IoTコンテンツ）／杉山　恒司（データ流通）／染宮 弘和（ドローン航空管制）／富田 直美（ドローン・エコ型社会）／中川 有紀子（地方創生・日中イノベーション）／中村 仁（蓄電池）／濱口 和久（防災・減災・知災）／林 秋博（GIS＆GeoAI）／馮 麗萍（中国スマートシティ規格）／松本 祐二（地域医療）／山本 浩章（地方自治）

メディア・学術発信実績

週刊エコノミスト・日経「経済教室」に論考。日経グローカル・日経コンストラクション・NHK・NBCの取材実績。土木学会で3回発表、電子情報通信学会で基調講演。国会の衆議院災害対策特別委員会でも益田の防災IoTが先進事例として紹介された。SCOREで発信。

所在地：〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-17-5 茅場町リバーサイドビル2F（アーキテクトグランドデザイン株式会社内）東京グローバルヘッドクォーター（事務局）　TEL：03-6459-1995